



野菜集出荷所に続々と出荷される「白神ねぎ」



規格厳守!秋冬ねぎ出番へ

ねぎ部会、能代営農センター

部会員がプライドをかけて育て上げた秋冬ねぎがトラック一杯に運び込まれ、職員は連日7,000c/s程出荷されるねぎの荷下ろし作業に嬉しい悲鳴をあげています。

ねぎ部会は出荷規格等の再確認を目的に10月24日に部会員ら約40名が参加し出荷目揃会を開催しました。

大塚部会長は「今一度気を引き締めて、統一された規格を出荷し白神ねぎブランドの向上に努めよう。」と呼びかけました。

また、営農企画課佐藤係長は、関東近郊で150店舗展開している量販店を訪問した際の話しにふれ「数年前は陳列棚に「秋田県産ねぎ」と標記され販売されていたが、今では「白神ねぎ」と標記し販売されていることは、少しずつブランドとして評価してもらっている証。その期待に応えるよう規格を厳守して頂きたい。」と話しました。



ポップには「長ネギ」や「秋田県産ネギ」ではなく「白神ねぎ!!」

「あきた白神米」をいち早く食卓へ

生活課

安全・安心な新米「あきた白神米」を、いち早く消費者へ提供するため、10月13日に特設会場を設け新米直売会を開催しました。

午前9時からの会場を予定していたが、新米を楽しみにする来場客が車列を組み始めたため、予定時刻よりも早く開場し、8,500円（30kg袋）で販売すると会場には約100名が「あきた白神米」を買い求め来場頂きました。

中には、8袋買い求める来場者もあり、「県外にいる親戚、兄弟が毎年楽しみに喜んでくれるから買いに来た。」と話してくれました。

今後もホームページの「白神のめぐみ宅配便」等を通じて消費者に届けて参ります。



新米を買い求める人でにぎわった直売会



警察署長の号令で一斉にライト点灯

早めのライト点灯、ハイビーム走行を！ JAあきた白神

能代警察署にて10月10日に「1010(てんとう)」の語呂に合わせた「早めライト点灯出発式」が開催されました。

能代警察署管内では農耕車が横転した事故等2件の死亡事故が相次いでおり、萩原能代警察署長は、「この時期、日没後の軽トラック、農耕車の事故が懸念される。不幸な事故を未然に抑止するためにも、早めのライト点灯等を徹底頂きたい。」とあいさつすると、同署駐車場で萩原署長の号令に合わせてパトカーや当組合、他団体の車両約20台が一斉にライトを点灯し隊列を組んで早めのライト点灯を啓発するため同署を出発しました。